

評価結果概要版



令和4年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査と事業評価（組織マネジメント項目・サービス項目）の評価手法

法人名称	社会福祉法人多摩同胞会
事業所名称	泉苑ケアセンター
事業所所在地	東京都府中市武蔵台1丁目10番地の4
事業所電話番号	042-366-0080

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	<p>1) 「最も困っている人々のいのちと生活を支えます」という法人の福祉理念を継承した事業運営を図ります。泉苑を利用される皆様には、公共性を維持した質の高いケアサービスを提供します。</p> <p>2) 「利用者が主人公」であることをサービス提供の基本とします。利用者が主体的に過ごす場として、安全で安心した環境が提供できるよう援助します。</p> <p>3) 利用者の人権と個人の希望や意思を尊重した個別援助・介護サービスの提供に努めます。公平平等を基本に、利用者の人権とプライバシーを尊重します。また、個人のニーズに合わせた生活支援・介護予防及び介護サービスの提供に努めます。</p> <p>4) 利用者や家族の絆を大切に、家族を含めて支援します。利用者及び家族間の歴史や絆に対する相互理解と連携が高まるよう働きかけ、家族の方に安心と信頼が得られるよう支援します。</p> <p>5) 地域福祉活動の拠点とします。泉苑を地域に開放し、地域の福祉拠点として任務役割を一層発揮し、地域に貢献します。</p>

全体の評価講評

<p>特に良いと思う点</p> <ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、ショートステイ、居宅介護支援センターを併設し、包括的支援の連携事業に取り組んでいる <p>法人の福祉理念「最も困っている人々のいのちと生活を支えます」に沿い、「利用者が主人公」であることをサービスの基本として安心安全な環境を提供し、利用者の持てる力を活用しながら住み慣れた地域で生活ができる支援に努めている。法人の歴史ある地域福祉活動や高齢者を見守る事業、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、ショートステイ、居宅介護支援センターを併設し、生活を支える様々な相談内容への対応や利用者の生活の質が向上するよう、連携事業に取り組み、高齢者の日々の暮らしと多様な介護支援を総合的、包括的に提供している。</p> <ul style="list-style-type: none">・業務が煩雑な状況や時間は限られるが日々のミーティングの場を設け、意見や提案を共有し、高齢者・家族に選ばれる事業所を目指している <p>サービスを利用するために通いたいと思われ、選ばれる事業所を目指し、日々のミーティングや月定例会議、PC上グループウェアや法人共通のソフト等を活用し、部署内の情報共有や活発な意見交換を行っている。時間は限られているが日々のミーティングの場を設け、タイムリーに出される意見や提案についての検討をしている。更に、終業前には当日の業務が煩雑な状況でもミーティングの時間を確実に設定し、相談員、介護員、看護職員は専門の立場から利用者状況や援助に関する情報を提供し、利用者が安心して過ごす場所、環境を整える事に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・決められたプログラムに拘らず、利用者の意向やその日の体調等に併せた過ごし方や環境を提供し、可能な限り臨機応変な対応に努めている <p>事業所は自宅での利用者の生活リズムを尊重した支援を行なっている。決められた活動プログラムの提供に拘らず、利用者の意向やその日の体調・コンディションに合わせた過ごし方や環境を提供している。活動に不参加の場合も</p>
--

意思を尊重しどのように過ごしたいか適宜、声がけをして可能な限り臨機応変な対応に努めている。職員は帰宅後の生活を踏まえ体力的に疲れ易い、疼痛がある方等は食後や入浴後には休憩の声がけをしている。作品制作や読書の方、静養室、ソファで過ごす利用者も職員は常に視野におき利用者の意向に沿った過ごし方を支援している。

さらなる改善が望まれる点

・稼働率の向上を目指して事業所としての特色を打ち出し、引き続き居宅介護支援事業所への働きかけ等多様な手法を検討し実践してほしい

事業所では、事業計画で稼働率の向上と事業所のPRを重点項目に挙げている。地域での通所事業所が増えていること、コロナ禍での休止期間等もあり、危機感を持っている。今後とも事業所としての特色を打ち出し、地域の利用者や居宅介護支援事業所に存在を認識してもらう必要がある。事業所では、空き情報の提供、利用困難ケースの受け入れ、居宅介護支援事業所への訪問によるアピール、他事業所を見学して活動内容の参考にするなど、引き続き多様な手法を検討、実践し、稼働率向上への取り組みに期待したい。

・施設の老朽化に伴う入浴設備の改修、温水洗浄便座の設置、活動エリアの拡がりに見守りの必要があり環境整備の検討に期待している

利用者アンケートから、介護職員や各職員への感謝の言葉が多く聞かれると共に、入浴設備、温水洗浄便座設置についての声がある。入浴は1階の一般浴の使用、リフト浴槽は作動不良、3階特養の浴室を時間を決め利用し、コロナ禍には階の移動制限があり利用者の状態に合わせた入浴方法を工夫し行なった。フロアが広くデイサービスとしてのドアのない空間であり、利用者がくつろげる場の拡大として正面玄関ロビーも活用しているが、活動エリアの広がりには職員の目配りへの負担も感じられる。利用者や職員の動線に基づいたレイアウトの工夫を提案したい。

・業務分担の見直し、業務効率化のためのICT化の更なる有効活用、効率の良い記録等、課題解決に向けた取り組みを進めてほしい

事業所では、サービスの維持、向上策として、稼働率の向上と共に、業務分担の全体的な見直しと業務の効率化を挙げている。法人の事業計画でも「業務効率化のためのICT活用とICTによるサービスの質の向上」を謳っている。一方、ICT化をしても職員による効果的な活用、効率の良い記録の仕方、操作の習熟等の課題も多い。職員調査によると「業務の効率化に向けた更なるICT化を進めたい、マニュアルが整備されていない、職員の業務負担に偏りが出ている」等との声が寄せられている。今後、事業計画に沿って目標の確かな実現を目指してほしい。

事業者が特に力を入れている取り組み

・コロナ禍にあってもサービスが提供できるようにという職員個々の取り組みを評価したい

事業所を取り巻く環境において様々なリスクが想定される。特に、ここ数年はコロナ感染症対策が緊急の課題となり、事業所を含む施設全体でその対応に努めている。併設施設でコロナが発生し、事業所も一定期間休業せざるを得ない状況となったが、職員の感染を防ぐことはもちろん、併設事業所で感染が発生してもデイサービス事業は継続できるように、職員の動線や休憩場所を施設全体として分けするなど、他の職員との接点を極力防ぐ努力を継続している。コロナ禍にあっても、利用者にサービスを提供したいという職員個々の取り組みを評価したい。

・地域包括支援センター併設により、利用困難者とされる方も受け入れる環境を整えている

事業所は地域の方々が安心して誰にも訪れる「老い」を受け止め、介護、生活援助が必要になっても住み慣れた地域で暮らせることを目指している。地域包括支援センターが併設しているので、変化する社会情勢や家族関係が希薄、身寄りのない方などへの対応も速やかに進められ、利用者の状況や変化を担当ケアマネジャーと共有し、在宅での生活が継続する援助をしている。サービスセンターに通うことで利用者自身のQOLを高める配慮や利用者家族の生活上の不安や相談援助に努めている。

・「持ち帰り弁当」を提供し利用者が安心・安全の食事がしっかり摂れるように努めている

食事の提供は厨房で管理栄養士の献立作成により調理され、利用者からは「食事が美味しい」との意見が多く聞かれた。献立は栄養バランスが良く季節毎の味覚を感じられ、和・洋・中華等のバラエティに富んでいる。事業所では利用者が安心して暮らせる支援として、独居や家族の帰りが遅い方等の希望者に対して、夕食の「持ち帰り弁当」を提供している。市の配食サービス廃止により事業所独自の食事を通しての地域貢献として提供し、通所利用者の約半数が「持ち帰り弁当」を利用し好評である。利用者が安心・安全の食事がしっかり摂れるように努めている。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

44/95

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	79.0%	15.0%	いいえ：4.0% 無回答・非該当：0.0%
2. 日常生活に必要な介助を受けているか	95.0%		どちらともいえない：2.0% いいえ：2.0% 無回答・非該当：0.0%
3. 利用中に興味・関心が持てる行事や活動があるか	59.0%	29.0%	6.0% 無回答・非該当：4.0%
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	65.0%	29.0%	いいえ：0.0% 無回答・非該当：4.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	75.0%	18.0%	いいえ：2.0% 無回答・非該当：4.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	95.0%		どちらともいえない：4.0% いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	86.0%	11.0%	いいえ：2.0% 無回答・非該当：0.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	77.0%	13.0%	9.0% 無回答・非該当：0.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	61.0%	20.0%	18.0% 無回答・非該当：0.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	86.0%	9.0%	いいえ：0.0% 無回答・非該当：4.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	84.0%	11.0%	いいえ：0.0% 無回答・非該当：4.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	54.0%	36.0%	6.0% 無回答・非該当：2.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	52.0%	40.0%	いいえ：2.0% 無回答・非該当：4.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	68.0%	15.0%	15.0% 無回答・非該当：0.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	31.0%	47.0%	20.0% 無回答・非該当：0.0%

評価結果概要版



令和4年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査と事業評価（組織マネジメント項目・サービス項目）の評価手法

法人名称	社会福祉法人多摩同胞会
事業所名称	府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
事業所所在地	東京都府中市朝日町3丁目17番地1
事業所電話番号	042-369-0080

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	1)利用者へ深い共感を持つ 2)地域の方に感謝する 3)水、電気などの資源を大切に 4)常に防災を心がけ火をださない

全体の評価講評

特に良いと思う点

・多様な活動プログラムを用意して自由に選択できるようにしており、自宅以外の居心地の良い「居場所」の一つになるように支援している

多様な活動プログラムがあり折り紙、貼り絵、書道、スクラッチアート、編み物、脳トレなど、その日にやりたいことを選んで行える。チーム対抗のポッチャなどで競いながら体を動かすこともある。利用者には活動への参加を無理強いせず、必ず意向を確認してから参加してもらっている。利用者同士の関わりを大切に、橋渡しの工夫もしながら、自宅以外の居心地の良い「居場所」の一つになるように支援している。コロナ禍で「旅行に行けない」との利用者の声から、居ながら旅行体験ができるオンラインサービスを利用して旅気分を楽しんでもらっている。

・利用者の個別状況に応じた「通所介護計画書」を作成し、職員全員で計画の内容に基づき支援し、介護記録システムに記録して共有している

「居宅介護計画書」をもとに、本人・家族の意見も取り入れ、個別状況に応じた「通所介護計画書」を作成し、職員全員で計画の内容を共有して支援している。利用者の日々の状況や支援内容については、基本的に介護記録システムに集約して毎日記録し、共有している。利用者の状態変化が見られた際など重要なことについては、介護記録システムの記録を個別に印刷して部署内会議、朝礼、夕礼で確認、共有して支援にあたるとともに、通所介護計画へ反映させている。今年度から利用者の全体像を深く捉えてより充実した支援につながるような試みを始めている。

・自分たちの事業という意識を持ってもらうため、アンケートで意見を求め、取りまとめて一般通所事業所としての理念を策定している

日頃から、通所事業の役割や、すべきことを職員に伝えていたが、非常勤職員の比率が高いため、わがこととしてとらえてもらうのが難しかった。そこで、自分たちの職場、自分たちの事業という意識を持ってもらうため、2021年度の終わりにアンケートで意見を求め、取りまとめて一般通所事業所としての理念を策定している。事業所理念を介護計画書、事業計画書などに掲載してはいたが、高齢者施設あさひ苑の職員写真貼りだしに掲示し、通所の事務所ボードにも記載している。職員全体会議やサービス担当者会議出席時に事業所理念について触れている。

さらなる改善が望まれる点

・今後、新型コロナウイルス感染症対応の方法が確立してからどのようなことができるかを検討していくことが必要と思われる

近隣の小学校、中学校との交流や、納涼祭、もちつき、利用者の制作した作品展など、家族や近隣の地域住民も参加してもらえる行事を毎年開催し楽しんでもらっていたが、現在はコロナ禍のために家族や地域住民には参加しても

られない状況にある。保育園児ともコロナ禍以前は手遊びなどを一緒にしていたができなくなっている。書道の指導、音楽など、多彩なボランティア活動を受け入れていた。コロナ禍のために外部との交流がほとんど行えていないが、今後、感染症対応の方法が確立してからどのようなことができるかを検討していくことが必要と思われる。

・サービス担当者会議の減少により、自宅環境の把握や情報共有が難しく、ケアマネジャー、家族の意向も確認しにくいことが課題となっている

居宅介護計画書をもとに、本人・家族の意見も取り入れた通所介護計画書を作成し、居宅介護計画書に沿って短期目標の6ヶ月、長期目標の1年を基本として通所介護計画書の見直しを実施している。しかし、コロナ禍でサービス担当者会議がなく、居宅介護計画書の変更を依頼しても変更されないことがあり、通所介護計画書の見直しに支障が出ている。サービス担当者会議の開催を求めても開催されないことなどにより、自宅環境の把握や情報共有が難しく、ケアマネジャー、家族の意向も確認しにくい現状にあり、打開策が課題となっている。

・職員育成を課題とし、内部研修を通じて、チーム全体で情報を共有し、チーム力の底上げにつなげることを目指している

人材確保が難しい現状において、安定した事業運営、サービス維持や人材定着への対策へ向けた職員育成を課題としている。外部研修への参加を積極的に進め、個々のスキルアップと、外部研修報告会を定期的に行うことで、内容の整理と伝達技術を向上させることを2021年度の目標として計画した。しかし、コロナ禍で外部研修への参加はできず、計画通りには実行できなかった。研修はインターネット上などで受講し、内部の伝達研修を通じて、チーム全体で情報を共有し、チーム力の底上げにつなげることを次年度目標として継続して取り組むとしている。

事業者が特に力を入れている取り組み

・職員が年2回自己チェックを実施して意識を高め、毎月話し合いの場を設けている

事業所内で虐待防止推進委員会を立ち上げ、利用者の権利擁護に力を入れている。全職員が守るべき規範・倫理を職務規程などに明示している。年間計画に基づき法人全体研修（職業倫理とコンプライアンス）、内部研修（サービス提供の基本）を開催し、職員の理解が深まるよう取り組んでいる。“利用者に対して、「ちょっと待って」を乱用し、長時間待たせていませんか？”などの規範・倫理に関するチェック項目が含まれている「虐待の芽チェックリスト」を使って職員が年2回自己チェックを実施して意識を高めており、毎月話し合いの場を設けている。

・利用者個々の状態に合わせた食事形態などとともに、持ち帰り弁当を提供している

利用者個々の状態に合った「食」の提供に力を入れている。食事形態（一口大・刻み・ペースト状）は柔軟に対応している。塩分制限、アレルギーがあれば代替えし、個々の状態に合わせている。食器、スプーンなども身体状況に合わせてできる限り自分で食べられるようにしている。安定した在宅生活へとつなげられるように、「夕食持ち帰り事業」を実施し、高齢家族や独居の人の夕食作りの軽減、栄養バランスの確保として、夕食・持ち帰り弁当を提供している。独居で後片付けなどの処理が上手にできない人などには事業所で食べてから帰る支援もしている。

・「服薬マニュアル」に沿ってダブルチェックなどをして配薬し、誤薬を防止している

服薬管理を徹底し、誤薬防止に力を入れている。朝の迎え時に預かった薬は「服薬マニュアル」に基づいて、まず看護師が曜日ごとの「配薬表」と付け合わせて確認し、職員2名で利用者の名前を読み上げてダブルチェックしている。服薬時には薬袋の名前を読み上げ本人確認しながら内服してもらうなど誤薬防止の徹底を図っている。飲み込みを確認し、嚥下障害の場合はトロミをつけるなど、個々の状態に合った方法で確実に服薬を実施している。独居などで朝食後の服薬、時間ごとの薬などで服薬が困難な利用者については、事業所の支援で協力することもある。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

45/81

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	84.0%	8.0%	いいえ：2.0%	無回答・非該当：4.0%
2. 日常生活に必要な介助を受けているか	84.0%	6.0%	8.0%	いいえ：0.0%
3. 利用中に興味・関心を持てる行事や活動があるか	73.0%	15.0%	6.0%	無回答・非該当：4.0%
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	80.0%	11.0%	6.0%	いいえ：2.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	68.0%	17.0%	11.0%	いいえ：2.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	88.0%	6.0%	どちらともいえない：4.0%	いいえ：0.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	88.0%	6.0%	いいえ：0.0%	無回答・非該当：4.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	80.0%	13.0%	どちらともいえない：4.0%	いいえ：2.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40.0%	20.0%	40.0%	いいえ：0.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	77.0%	15.0%	6.0%	いいえ：0.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	77.0%	6.0%	15.0%	いいえ：0.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	80.0%	11.0%	どちらともいえない：4.0%	いいえ：4.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	71.0%	17.0%	8.0%	いいえ：2.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	71.0%	11.0%	15.0%	いいえ：2.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	40.0%	11.0%	6.0%	42.0%

評価結果概要版



令和4年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査と事業評価（組織マネジメント項目・サービス項目）の評価手法

法人名称	社会福祉法人正吉福祉会
事業所名称	府中市立よつや苑高齢者在宅サービスセンター
事業所所在地	東京都府中市四谷3丁目66番地
事業所電話番号	042-334-8133

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	1) わたくしたちは、二十一世紀における地域に根ざした福祉社会の新たな進展と多様な福祉文化の創出に積極的な役割を果たします。 2) わたくしたちは、利用者が、住み慣れた地域での生活が続けられるよう、共に支え共に生きる地域福祉のまちづくりに寄与します。 3) わたくしたちは、利用者が、尊厳をもって、自分らしく自立した生活が送れるよう、保健、医療と福祉を総合した支援に努めます。 4) わたくしたちは、利用者個人の尊厳が守られるよう、利用者の自己実現と選択を尊重し、利用者本位のサービス提供を目指します。 5) わたくしたちは、地域に開かれた運営とサービスの質の向上に努め、利用者やご家族が満足される「価値あるよつや苑」を創ります。

全体の評価講評

特に良いと思う点

・自立支援ケアの基つき「歩くで元気に」基ついたサービスが浸透し、在宅生活の維持・継続に繋がっています

法人独自の自立支援ケアの基つき「歩くで元気に」の要素を活動に取り入れ、職員が意識して歩行支援に取組み対応力が上がり、殆どの方が歩く機会や椅子への座り直しなど取り入れるようになりました。こうした働き掛けが少しずつ利用者の方にも浸透していったことで、自発的な運動する変化が見られています。パワーリハビリ器機を利用者が1人でも安全に使用できる工夫や利用者の希望や住環境に合わせた訓練を実施しています。これらの取組みが在宅生活の維持・継続に繋がっており、家での生活に役立つ機能訓練として期待されています。

・創作活動や食事の楽しみから利用者の活動意欲を向上させ、満足度につながっています

創作活動や食事を楽しみに継続して利用者されている方も多く、季節毎の行事や様々なクラブ活動が用意され、趣味活動や創造性を発揮する機会となっています。季節を感じる写真や話題となった新聞を掲載して利用者同士の会話のきっかけを作るなど和やかな雰囲気を作り出しています。また、食べる楽しみとして、お刺身などが人気で海鮮丼や天ぷらなどの提供と行事食や在宅で簡単にできる献立を紹介し、利用者・家族から好評を得ています。利用者自身が選択できる工夫や楽しみを見つける機会を増やす事で、活動意欲を向上させ、満足度につながっています。

・一般と認知通所を分離させ、担当制による役割の明確化と自主性の引き出しにより運営体制の仕組み化が進められています

職員の担当制によって役割と責任範囲を明確化して自主的に取り組めるような仕組みをつくり、担当業務の進捗状況を面談などのコミュニケーションの場で共有しながら、通所事業チームの構造化を進めてきました。今期は特に、一般通所と認知症対応型通所を様々なリスクや利用者ニーズに対応するために完全に分離することで、例えば一般の利用者が担当職員をしっかりと認識できるようになったり、認知症では利用者が落ち着ける空間になるなど、それぞれの特徴をつくるように各通所の担当職員が役割を認識して取り組んでいます。

さらなる改善が望まれる点

・利用者の個別性や主体性を引き出す具体的な目標設定と支援方法を明確にしたケアマネジメントの質の向上を期待

します

利用者・家族の希望を踏まえた生活課題を明確にした計画を作成し、利用者の心身の変化等の情報を家族やケアマネジャー等から聞き取って状態に応じた支援となるよう努めています。利用時の変化を観察し、その時の本人の言葉や表情を記録することを職員会議でルール化して情報共有を図っています。今後の課題として、職員の気づきや提案を利用者支援に活かしていきたいとしており、本人の思いや気持ちを丁寧に聞き取ながら本人の前向きや気持ちをやっ
てみたいと思える具体的な目標設定と支援方法を明確にしたケアマネジメントの質の向上を期待します。

・利用者が事業所を意識的に活用し、活動や過ごし方を自己決定できるよう支援し、利用者主体のサービス提供の工夫が望まれます

利用者の自立を支援する方針から、自主的にデイサービスでの生活を送るよう働きかけています。利用者に血圧測定やパワーリハビリの操作方法を指導したり、食器洗い・食器拭き・下膳等の家事的なことや、車いすの操作、活動の準備や椅子の設置等に徐々に拡大し、現在では利用者に着し自主的に進めています。今後は更に、利用者が事業所を意識的に活用し、サービス内容を自身で選択、自己決定することを基本として、一日のスケジュールや活動の選択、他の利用者との自主的な活動をする等自立を支援する利用者主体のサービス提供の工夫が望まれます。

・コンセプト定義の再確認と行動計画・目標へ紐づけによる、実行計画の一層の体系化が期待されます

昨年度までコンセプト「魅力」を基に、職員個々の解釈のもとで提供サービスの魅力づくりに努めてきましたが、今季管理層の交代と一般と認知通所の分離をいた中でどのように継承するかは課題と思われ
ます。事業体制を見直し
た中でも職員の提案が活発になりつつあるので、あらためて「魅力」コンセプトイメージもしくは魅力の要素を職員を交えてすり合わせるが必要と思われ
ます。また品質目標兼報告書の具体的な行動計画・目標に定義した魅力要素ををどのようにして実現させていくかを、それぞれの事業の職員と検討し展開することが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み

該当データがありませんでした。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

34/94

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	85.0%	8.0%			いいえ：2.0% 無回答・非該当：2.0%
2. 日常生活に必要な介助を受けているか	73.0%	11.0%	8.0%	5.0%	
3. 利用中に興味・関心が持てる行事や活動があるか	58.0%	23.0%	8.0%	8.0%	
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	79.0%	14.0%			いいえ：2.0% 無回答・非該当：2.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	67.0%	23.0%	8.0%		無回答・非該当：0.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	79.0%	17.0%			いいえ：0.0% 無回答・非該当：2.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	88.0%	8.0%			いいえ：0.0% 無回答・非該当：2.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	88.0%	5.0%			どちらともいえない：2.0% いいえ：2.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	61.0%	14.0%	20.0%		いいえ：2.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	88.0%	11.0%			いいえ：0.0% 無回答・非該当：0.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	79.0%	11.0%	8.0%		いいえ：0.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	79.0%	8.0%	8.0%		いいえ：2.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	76.0%	14.0%	8.0%		いいえ：0.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	73.0%	11.0%	11.0%		いいえ：2.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	52.0%	11.0%	11.0%	23.0%	